

## まちを映す Minamo City

### ～郊外における鉄道駅と水辺空間を一体とする公共空間の計画提案～

都市空間生成研究室

1841024

岩崎 瑛美

水辺空間	鉄道駅	河川
郊外住宅地	歩行空間	アクティビティ

#### 1. 研究の目的と背景

昨今、コロナウイルス流行の影響により、人々の屋外での活動や、屋外空間の利用が増えている。しかし、特に郊外住宅地での川沿いの水辺空間の活用は未だ乏しく、アクティビティの多様性に対応できる空間が不十分だといえる。また、駅空間も近年改修などによって、まちに接続して利用増進を図ろうとしている中、都市部には都市河川に近接した場所に交通の結節点となる鉄道駅がある事例が多い。しかし、こうした駅と河川間の十分な歩行空間や滞留空間などの確保がされている場所もまた少ない。こうした背景から、今後鉄道駅と河川空間の接続は重要となると考えられるが、国内においてそのような事例はまだない。そのため、河川敷を人々の多様なアクティビティを可能とする公共空間であると考え、鉄道駅との接続を強化し、より人が利用しやすい環境とする必要がある。

そこで、本研究は、川崎市多摩区登戸の小田急線登戸駅とその周辺街区、多摩水道橋高架下の敷地を対象に、登戸駅の新たな駅前空間・多摩川河川敷のアクティビティ空間の設計・川沿いの歩行空間の設計の計画立案することを目的とし、今後の水辺空間を利用したまちづくりに寄与することを目指す。



1. 計画対象地を示した図

#### 2. 登戸の歴史と現在のまちの実態

##### 2-1. 登戸・向ヶ丘遊園の歴史的背景

川崎市多摩区に位置する登戸は、江戸時代から江戸と相模を結ぶ道であった旧津久井道が多摩川を渡るために川の兩岸を水運で結ぶ登戸の渡しによって通され交通の要衝として栄えた集落であり宿場としても発展した。

登戸の南側では向ヶ丘遊園が花と緑が溢れる郊外遊園地として賑わった(2002年に閉園)。

##### 2-2. 現在の登戸のまちの実態

今日の登戸は小田急線と JR 南武線の乗り換え地点として交通の結節点となっている。多摩区内で最も人口が集中している地域となっており、20代～30代の単身世帯の学生や労働者が多く住んでいると考えられる。駅周辺は、商業地域となっており、飲食店やスーパー、雑居ビルなどが集積している。

#### 3. フィールドワークによる設計対象地周辺の空間分析

計画対象地周辺と河川敷の人々のアクティビティと歩行空間、河川敷空間の調査と分析を行った。

##### 3-1. 人々のアクティビティと河川敷空間の分析

河川敷ではグラウンドで運動する人や釣りをする人、植生の中を散歩する人などが見掛けられ、築堤では座って会話をを楽しむ人や音楽演奏をする人など、様々なアクティビティが確認できた。空間分析においては、高架下のデッドスペース化などの河川敷空間の利活用ができていない点が課題だと考えた。

##### 3-2. 歩行空間の分析

交通量の多い多摩沿線道路を通る車や、築堤上を通る自転車と歩行者が接触しそうになることと、街から河川敷へのアクセスの悪さ、また、河川敷での散歩路の少なさが課題点であると考えた。また、小田急線登戸駅のホームが築堤上近くまで伸びているにも関わらず、河川敷にすぐにアクセスできる出口が用意されていないことか

ら、鉄道利用客の河川敷への利便性の高い動線計画が必要であると考えた。

### 3-3. 登戸と和泉多摩川の比較分析

登戸は若年層や働き世代が多く集まり、商業地域らしい日常的な賑わいや活気があるまちである一方、登戸の対岸の地域である和泉多摩川では高齢者が暮らしやすい閑静な住宅街であることから、両岸で住民とまちの個性が全く違うものとなっていることが分かった。また、河川敷では、両岸での利用用途や整備環境の違いにより市街地と河川敷間の動線や歩行環境が異なっていることが分かった。

## 4. 計画内容

### 4-1. 計画についての課題

以上の調査より、計画地周辺の既存の自然環境の孤立や、過去の歴史や文化が衰退してしまったことからまちの個性が消えてしまったことが挙げられる。また、鉄道利用客が登戸で過ごす目的性の低さや、まだまだ未熟な水辺空間活用、川による両岸のまちの分断などを課題として捉えた。

### 4-2. 計画コンセプト

川の水面上での水面操作によって新しく生まれた水辺空間が人々の多様なアクティビティを生み出し、水辺空間の賑わいをまち全体に波紋の様に広げる。また、多摩川流域への新しい動線となる水運とホステルの運営によって、かつての登戸の個性を再解釈し蘇らせる。さらに、生田緑地や二カ領用水を始めとするまちの豊かな自然の拠点を新たな河川空間の緑によって繋げ、人々の癒しの生活動線と公共空間を生み出す。



図 2. コンセプト平面ダイアグラム



図 3. 計画対象地 全体パース

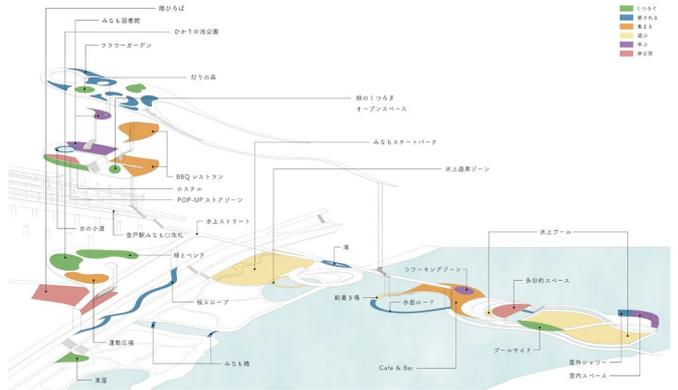


図 4. 計画内容とアクティビティを表した図



図 5. 【左】水上遊具ゾーン 【右】プールサイド



図 6. 【左】ひかりの池公園 【右】灯りの森

### 参考文献

- 「三井住友トラスト不動産 写真でひもとく街のなりたち」  
<https://smtrc.jp/town-archives/city/shinyurigaoka/index.html>  
(最終閲覧日 2022/01/18)
- 川崎市「ウォーキングのススメ 旧津久井道と職人の街を歩く」  
<https://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000055587.html>  
(最終閲覧日 2022/01/19)
- 「東洋経済 ONLINE」  
<https://toyokeizai.net/articles/-/291920>  
(最終閲覧日 2022/01/18)
- 「川崎市 登戸駅西側まちづくり方針」  
<https://www.city.kawasaki.jp/500/page/0000096654.html>  
(最終閲覧日 2022/01/18)